

寺口麻穂
**ドギー
 パラダイス!**
 犬と人間の快適な生活



第17回

ピットブル③



てらぐちまほ

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わると共に、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供しつつ、13歳になるピットブル、ジュリエットとニュージャージーで楽しく生活中。ご意見・ご感想は: info@doggieproject.com

予想を嬉しく裏切つて多数の反応をいただいたので、引き続きピットブルについてお話しします。

愛犬ジュリエットを飼い始めた直後、「事件」が起こりました。散歩中、後ろにいた男の人が鍵を落とした首で驚いたジュリエットの首輪がはずれ、彼が「シッシン」と払いのけた手の平を噛んでしまったのです。男の人は大急ぎで走り去り、私は突然のことにわなわなしました。ジュリエットも震えながら家の中でお漏らしをしました。男の人が連れてきた警官は、手馴れた調子で事情調査を素早く済ませ去りました。その後、何度も男の人の家に謝罪に行き、彼も「悪意のない事故」と理解してくれて一件落着に終わりましたが、私はシエルター、ドッグトレーナー、さらにはピットブル専門家に相談しました。人を噛ん



だジュリエット(ピットブル)をこのまま飼い続けても良いものかと。シエルターは引き取ると言いました。「引き取る≠安楽死」を意味します。飼い主として責任を持つと決めた限り簡単に結論を出しにくい旨を伝え、ピットブル専門家の診断を仰ぎたいと話しました。しかし、専門家からの返答は「人を噛んだピットブルは安楽死を考えてほしい」と厳しいもので、正直、驚きました。ピットブルを愛して止まない専門家が安楽死を考えてくれと言うなんて……。数日後にアポを取りジュリエットを連れて会いに行きました。カウンセリングを受けトレーニング方法を教わった後、彼女は「あなたたちなら大丈夫。これからも責任あるピットブルの飼い主として頑張ってほしい」と言ってくれました。それからの私はとにかくジュリエット、そしてピットブルの飼い主という肩書きを背負った責任遂行のためにできる限りのことをしました。

**真のピットブルの
 飼い主とは**

専門家が「人を噛んだピットは安楽死を」と言った意味を心から理解できるよくなつたのは、しばらく経つてからのこと。世界でこれだけ誤解され、

間違つた制裁を受けているピットブル。その犬種を愛するがゆえに「誘れるピットブル」と「犬種を知り尽くした飼い主」だけにイメージ改善を託し、全米のシエルターからピットブルがいなくなることを願うための厳しい言葉だったのです。自分がピットブルと関わり、彼らを取り巻く問題を学べば学ぶほど理解できた気持ちでした。

ピットブルは人間が闘犬用に作り出した犬種ゆえ、他の犬や動物に対して攻撃性を示す要素があるのは事実です。またテリア独特のPrey Drive(狩猟本能)が強いのも彼らの特性。ピットブルやロツトワイラー、ジャーマンシェパード、マスチフなどいわゆる「パワフル・ブリード」と言われる犬種の飼い主になるには、常に精神的に愛犬の上に立ち、犬が攻撃する必要と機会を作らないようにしなければなりません。また、ピットの攻撃に入る前のボディランゲージである「沈黙」や「静寂」を読み取るのは、犬種を熟知してないと困難です。アクセサリーのように簡単にピットを手に入れてしまいうティーンに、それだけの能力があるでしょうか。また、シエルターで「かわいそう」と救つたとしても、哀れみが先に立ちパワーがない人にパワフルな犬種を扱うのは簡単ではありません。それぞれの犬種には条件を満たす飼い主が必要で、それぞれの人間にも性格やライフスタイルに合った犬種があります。それが、犬を選ぶ際の一番大事な要素です。特にピットブルの場合は、「間違い」が起きた際に他のどの犬種よりも数倍誇張されてニュースになるので、飼い主になる際は150%の心の準備が必要。でもそれだけの見返りがあることは、ピットのオーナーならきつとみんな理解してくれるでしょう。

来週は、ピットブルへの「偏見」を大きな視野で考えてみたいと思います。皆さんにも是非一緒に考えて頂きたい深いテーマです。お楽しみに。